

# どうして海に プラスチックごみが流れ込むの？

日本は海にかこまれた島国です。でも、みんなが海の近くに住んでいるわけではありません。それなのに、どうして海にプラスチックごみが流れ込むのでしょうか。

## ★プラスチックごみは、3つの方法で処理される

### リサイクル

プラスチックごみの約4分の1は、もう一度プラスチック製品に生まれ変わっています。



### 燃やす

プラスチックは燃やすことができます。しかし、燃やすと二酸化炭素が発生します。そして地球温暖化を進めてしまいます。



### 埋め立てる

ごみを燃やしたあとに出る灰や、リサイクルできないごみは最終処分場（埋め立て地）に捨てられます。日本は面積が狭いうえに、処分場の数も限られています。このままごみを捨て続ければ、あと10年ほどで処分場はいっぱいになると予想されています。



## ★きちんと処理されなかったごみは？

通学路、公園、駅前、商店街……。どんな場所でも、ちょっと見渡せばごみが落ちています。お菓子の包装紙、ビニール、お弁当のパック、食品トレー、ペットボトルなど、ほとんどがプラスチックごみです。それらは、ポイ捨てされたものだったり、ごみ置き場で動物に荒らされたものだったり……。そういったごみが風で飛ばされ、雨で流され、いろいろな場所に運ばれます。



# ごみは川から海へ流れ込む

ごみが道路わきにある排水溝に落ちると、水再生センターへ流れていきますが、大雨が降ると川に流れ込んでしまうことがあります。

また、風で飛ばされたり、雨で川に流れ込んだごみは、そのまま海へと運ばれます。



# 大きなプラスチック 小さなプラ スチック

この絵は、海まで運ばれたプラスチックごみが、どんな動きをするかを表わしています。

海の表面や、表面に近い部分には、大きなごみが浮いています。

砂浜に落ちているプラスチックごみは、太陽の紫外線や波の動き、また、砂浜の熱であたためられて、ボロボロと碎けて小さくなります。1枚のレジ袋から、数千個のマイクロプラスチックができるといわれています。

マイクロプラスチックは海の表面だけでなく、海の底のほうにも沈んでいきます。クジラやイルカ、カメなどの大きな生き物は大きなプラスチックごみを、小さな魚たちは小さなプラスチックごみをえさと間違えて食べてしまいます。

東京湾で、海の底にたまったものを調べてみると、多いところでは、泥 10 グラムにつき 40 個程度のマイクロプラスチックが入っています。



海洋調査 (提供: 高田秀重)

## 海岸のプラスチックごみランキング (出典: 一般社団法人 JEAN クリーンアップキャンペーン 結果より)

海岸にはいろいろなものが流れ着きます。もっとも多いのは海藻など自然のものですが、そのほかに多いごみのランキングは次の通りです。どれもプラスチック製品です。



1位 硬質プラスチック

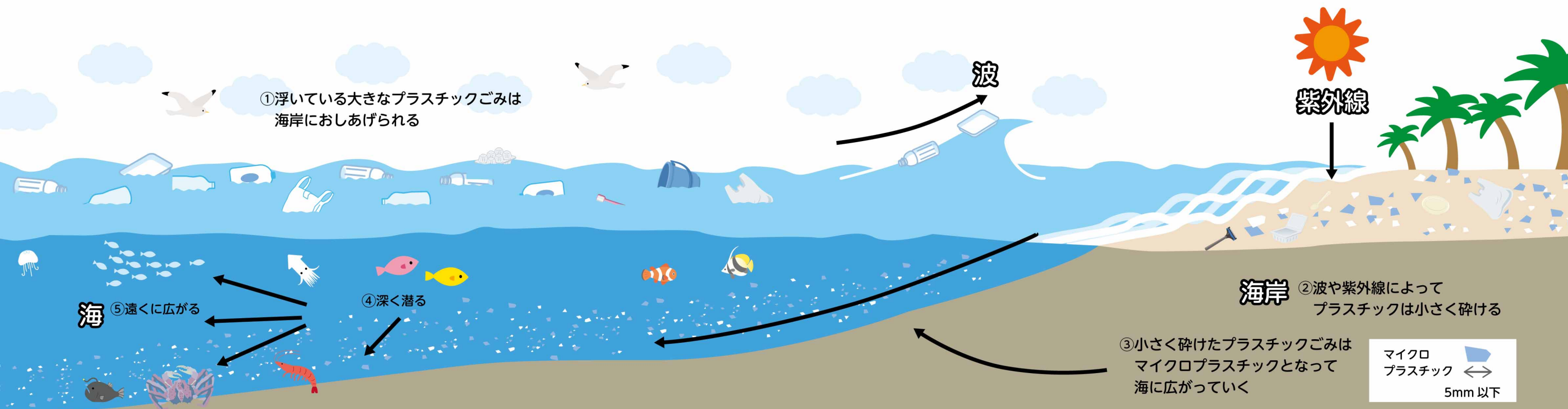
(提供: (公財) かながわ海岸美化財団)



2位 たばこの吸い殻・フィルター



3位 発泡スチロールの破片



# 海のプラスチックに苦しむ動物たち

## ★カメの鼻から出てきたものは!?

これは、中央アメリカ・コスタリカの沖で海洋調査をしていて見つかったカメで、鼻に何かつまっていました。それをとってみると、なんと10センチもあるストローが出てきたのです。カメは鼻から血を流し、苦しうに鳴き声をあげました。

調査団の人は、「間違っ飲んでしまったストローを吐き出そうとして、鼻につまってしまったのではないかと話しています。

陸地からはるか遠く離れた美しい海で、こんなことが起きているのを知っている人はどれだけいるのでしょうか。



鼻にストローが刺さったウミガメ (提供: 日経ナショナル ジオグラフィック社)



釣り針を飲み込んだ海鳥

## ★釣り針を飲み込んだ海鳥

神奈川県鎌倉市の海岸で発見された海鳥です。釣り針を飲み込んでしまったようで、釣り糸が口元にからんでいます。釣り糸はプラスチックでできています。

心ない釣り人が捨てたものが、物言えぬ動物たちを苦しめているのです。

## ★魚網がからんだ海鳥

海辺に打ち上げられた死んだ海鳥です。網がからまって死んだのですが、こうした光景がたくさん見られます。

プラスチックごみのせいで、魚、海鳥、アザラシ、ウミガメなど少なくとも約700種類もの生物が傷ついたり死んだりしています。ウミガメの52%、海鳥の90%がプラスチックごみを食べていると考えられています。



魚網がからんで死んだ海鳥 (提供: アマナイメーجز)

## ★ビニールがからまったシュバシコウ

スペインのごみ捨て場にいたシュバシコウという鳥です。幸せを運ぶというコウノトリの仲間です。

この鳥は、写真家の手で助けられましたが、自分で体からみついたビニールやプラスチックをとれない動物は、苦しみながら死んでいくのです。



青いビニールに包まれた海鳥  
(提供: 日経ナショナル ジオグラフィック社)